

総論

満点	60点	目標得点	42点	試験時間	90分	偏差値	73
大問数	6	小問数	48				
【解答形式】		選択式	44/48問	記述式	3/48問	論述式	1/48問
【問題難易度】		C	3/48問	B	7/48問	A	38/48問
※問題難易度：C難問，B可否を分ける問題，A正答すべき問題，を示す							

Topics

- 1：パラグラフリーディング中心の長文読解2題中心は変わらず。
- 2：文法・語彙問題が新形式だが、問われる力は変わらない。
- 3：作文・ストレス問題も変わらず出ているので、日頃の総合的学習が試されている。
 READING/GRAMMAR SECTIONが【I】～【IV】（発音問題5問を含む）、WRITING SECTIONが【V】、【VI】とはっきり色分けされている。最後の【VI】は80語程度の自由英作文の問題（与えられたテーマに関して、自分の意見を1～2つの理由を添えて述べる）。

こんな力が求められる！

(1) スピード

時間の割に読む英文の量が多い。長文問題の【I】、【II】で正味9ページの問題冊子のうちの8ページを占めるが、本文だけで合計約2400語、問題の選択肢も含めれば合計約5000語となる。次ページ以降の大問別分析で示した時間配分ではこの2問で75分を割り当てているが、それに基づいて計算すれば本文と選択肢の英語を読むだけで、 $5000 \text{ 語} \div 75 \text{ 分} = 66.7 \text{ 語} / \text{分}$ となる。設問を考える時間を考慮すれば、ある程度以上の難度の文章に対する1分当り90語ほどの読解スピードが要求されていると言えるだろう。というわけで、第1条件として英文読解スピードが必要である。当然、迅速な問題処理能力がなければ話にならない。

これらは入試本番までに一定量以上の英文を読み、入試問題を解くという訓練の積み重ねでしか養成できない。OS英語クラスなら授業内で扱う問題（テキスト+Practical Exercise）をきちんと学習していただくだけでかなりの部分を養うことができる。Advanced英語クラスでは残念ながら授業だけでは量が不足する。年度後半で始まる「長文マラソン」と各自が行う過去問研究で量を補わなければならない。

センター試験問題でいえば、9月時点で150点を取れる力が目安となるだろう（本番では180点）。

(2) 熟語暗記のやり方

早稲田レベルの入試問題では、理解を伴わない熟語暗記では歯が立たない。理解するためにはどうすればよいか。簡単だ。直訳すればよい。『完熟』の説明をちゃんと読めば、直訳の仕方が書いてある。

(3) 類推力

入試で出てくる文章には必ず知らない単語や表現が出てくる。それを類推できる能力は直接、問題として問われることもあるし、設問になっていなくても要旨の理解のためには必要になる。普段から英文を読むとき、正確な構造分析と文脈から未知の語を推測する思考訓練、さらに意識的な論理的類推を心がけなければならない。

【I】

予想配点	18/60 点	時間配分の目安	35/120 分
出題内容	長文問題 [Word 数] 約 1200 words (本文のみ) 『でか単』『完熟』レベル 『でか単』PART2 までの完全習得と PART3 の 30%程度 『完熟』PART3 まで [長文テーマ] 子供を危険から守りすぎると、子供の生活に冒険がなくなり、子供の想像力と創造性の発達を阻害する心配がある、という内容		
出題形式	選択式		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す (1) 1:A 2:A 3:A 4:A 5:A 6:A 7:A 8:A (2) 1:A 2:B 3:A (3) A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	O S 英語クラスの Practical Exercise で、ある程度の長さの長文を一気に読んで、内容を捉える訓練を積む。Advanced 英語クラスの人には、長文マラソンで鍛えよう。		

●本大問の特徴・概要

出典がわかったから問題が解けるというわけではないが[Adapted from Michael Chabon, “Manhood for Amateurs: The Wilderness of Childhood”(2009)]と明示されている。昨年の【I】に比べれば、内容も一般的で専門性の高い語も皆無なので読みやすくなった。難語も remnant, curtailing, cynic くらいだ。

本文に関して少しやっかいなのは、固有名詞がたくさん出てくることだ。The Lion, the Witch and the Wardrobe, The Railway Children, (Charles Schultz’s) Peanuts; Washington, Jefferson, Kit Carson, Henry Ford, Thomas Edison, Daniel Boone などである。もちろん全部わからなくても文脈はちゃんとわかる。ただ、前半はアメリカの有名な児童文学書のタイトルだろう (Peanuts は cartoon だが) と見当がつき、後半の 6 名のうち 3 人くらいは知っているくらいの「常識」がないと、時間内の正確な読解は無理なのではないか。難関大の英語の問題は、英語だけ勉強していればできる、というものではないのだ。

●注目すべき小問

特にないので、3 問とも触れておく。

(1) が法学部伝統の形式のパラグラフの要旨を答える選択問題。8 つのパラグラフに対して、ダミー選択肢 4 つを加えて 12 あり、少々面倒だ。標準的な解答方法は、パラグラフを 1 つ読んだら、正解に当たるまで選択肢を読んでいくというやり方だろう。選択肢を読みながら、本文の展開も予想していけば、本文を読む時間を短縮できる。

(2) の本文の内容に合わないものを選ぶ問題は時間がかかる。本文のあちこちに散らばっている判定箇所をそれぞれ見つけ出して確認する必要があるからだ。選択肢自体には特に難解なものはない。処理する時間で差がつく。

(3) の本文全体の要旨を選ぶこの問題が、【I】でいちばん簡単な問題。これを間違えるようでは、本文が全くわかっていないと言われても仕方がない。明らかに本文と矛盾する選択肢はない。本文で筆者が最も言いたかったことは何かを答える問題である。読めてさえればわかる。

【Ⅱ】

予想配点	22/60 点	時間配分の目安	40/90 分
出題内容	長文問題 [Word 数] 約 1200 words (本文のみ) 『でか単』『完熟』レベル 『でか単』PART2 までの完全習得と PART3 の 50%程度 『完熟』レベル PART3 [長文テーマ] hate crime に分類されるような極端な表現でも容認すべきだという評論文		
出題形式	選択式		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す (1) 1:A 2:B 3:A (2) C (3) 1:A 2:A 3:A 4:A 5:A 6:A 7:A 8:A (4) [AまたはC]-C [E]-A [G]-A [I]-A (5) 1:A 2:A 3:A (6) 1:A 2:B 3:A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	○S 英語クラスの Practical Exercise で、ある程度の長さの長文を一気に読んで、内容を捉える訓練を積む。Advanced 英語クラスの人には、長文マラソンで鍛えよう。		

●本大問の特徴・概要

「言論の自由」は他人種に対する感情的で他者に嫌悪感を抱かせるような言論でさえも保障すべきか、という問題に対し、具体的な事例（1990年のミネソタの事件、ホロコースト否定発言、2005年のデンマークの新聞のモハメッド風刺画騒動、他にイギリスでの2つの事件など）を挙げつつ、アメリカ・ヨーロッパの容認派、禁止派双方の識者の発言をちりばめ（アメリカは容認的でヨーロッパは禁止的）、最終的に民主国家は、嫌悪感を催させる発言でも存在できる余地を持つべきであるというはっきりした主張を述べた評論文。

結論はすぐに読み取れるのだが、容認派と禁止派が錯綜するし、政治的に微妙なので表現も微妙になっているし、「本文の内容に合わない」ものを選ぶなど、ややこしい問題もあって、本年度入試の山場となる問題だ。

(1)の語彙補充、(3)の段落要旨、(5)の発音問題、(6)の難語推測をできるだけ短時間で的確に解いて、微妙な問題はばつさり切れるかどうかがかかれ目だろう。

●注目すべき小問

(2)は悪問にかぎりなく近い難問。CかEかだが、Cを正解としておく。Cの *make their own decisions* は直前の *voice their opinions* の言い換えと考えられる。一方、Eの *greater benefits result from tolerating such opinions than from debating their merits* の *debating their merits* が不適切だと言えるからである。

(4)のE、G、Iは簡単に本文の内容に合わないとわかるが、A、C、Jから1つ選ぶのにかなり迷う。この部分も悪問に限りなく近い難問。まずJは *make their own decisions* を(2)に基づいて *voice their opinions* の言い換えと考えて本文と合っていると消す。Aは「アメリカ人はホロコーストがなかったとすぐに信じる」が合わない。Cは「*hate speech* を禁ずることは物理的力で問題を解決することに多くの点で似ている」が本文とは異なる。どちらでもよい。

いずれにしても、ここにあげた(2)と(4)の最後の1つは他の問題さえできれば合否には関係ないだろう。というより、これらの問題にハマって無駄に時間を費やしたら、他の問題に割く時間がなくなって、合格点は取れなくなる。早慶の入試では、しばしば、このような難問を見抜いて、潔く切り捨てられるかどうか、合否の分かれ目となることがある。

防止法は、特定の問題に時間をかけすぎないこと。3分ほど考えても判断できなかつたら次に行くことだ。そのとき、「あ〜、わからなかった」と否定的に考えるのではなく、「他にもっと簡単な問題があるはずだ」と前向きな考え方をすること。必ずそういう問題はあつた。

【Ⅲ】

予想配点	5/60 点	時間配分の目安	【Ⅳ】と合わせて 5/90 分
出題内容	文法・語彙問題（前置詞・副詞の用法）		
出題形式	選択式		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す (1) A (2) B (3) A (4) B (5) A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	平常授業カリキュラムでは 7 月に前置詞をやるが、普段から前置詞に対する意識の高さが必要だ。		

●本大問の特徴・概要

3 行程度の文に 6 ヲ所の空欄があり、与えられた語 (at, by, for, in, up) が入るべき箇所を答える、という他に類のない形式。しかし、難問はないので、落ち着いてやれば難しくはない。
have a go(機会がある)などという難しい熟語も出てくるが、これは知らなくても正解できる。他は fill in (『完熟』PART1 519)、make for + 場所(『完熟』PART1 1018)、look up(『完熟』PART1 634)、make an effort to do (『完熟』PART1 217) 程度。はっきり言って高 2 Advanced レベル。

●注目すべき小問

何カ所かトラップはある。

with the () least effort...[at は入らない]、it was simply () chance that allowed...[by は入らない]、it was actually () the way in which...[やはり by は入らない]、the boy...quickly asked () his mother to give...[for は入らない]など。

断片的な知識ではなく、正確な構造分析と正しい文脈把握に基づけば、合格者なら全問正解できて不思議はない。

【Ⅳ】

予想配点	5/60 点	時間配分の目安	【Ⅲ】と合わせて 5/90 分
出題内容	語彙問題 (cut の熟語)		
出題形式	選択式		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す (1) A (2) A (3) B (4) A (5) C		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	『完熟』の徹底と、テキストの長文の中での熟語暗記。		

●本大問の特徴・概要

慶應でも時々あるが、1 つの語に焦点を当てた熟語問題。一種の遊び。

cut down (『完熟』PART1 490)、cut off (『完熟』PART1 536)、cut into ~ (～に切り込む→割り込む)、be cut out for ~ (『完熟』PART1 578) が問われている表現。難しくないでしょ？

●注目すべき小問

(5)は The pay is very good—a cut () that of the company I used to work for.に above を入れる問題。これは cut が「給料」(一切れ→分け前→取り分)という意味なのだが、ここまで知っている受験生はそうはいない。文脈から推測するのも難しいだろう。

【V】

予想配点	3/60 点	時間配分の目安	【VI】と合わせて10/90分
出題内容	条件英作文問題		
出題形式	記述式		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (1) A (2) A (3) A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	○S英語クラスでは普段のWritingを真面目にやって添削を受けていれば問題なし。		

●本大問の特徴・概要

対策の必要なし。普通に早慶レベルの英語の受験勉強をしていれば、短時間で全問正解できる。

【VI】

予想配点	7/60 点	時間配分の目安	【V】と合わせて10/90分
出題内容	自由英作文問題		
出題形式	記述式		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	○S英語クラスで隔週毎に行う自由英作で書き慣れておけば大丈夫。		

●本大問の特徴・概要

解答欄が6行なので80語程度の解答になる。生まれつきの外見を変えることに対して賛成か反対かの意見を少なくとも1つの理由をそえて書く、という条件。1パラグラフでまとめるようにという指示がある。

妥当な内容、文法の正確さもさることながら、やはり時間との戦いも大きなポイント。時間に慣れるための練習が必要だ。

大切なことは、とにかく、単純な文法ミスをしないうに最後まで書ききること。優れた英語を書かなくても、参加賞さえもらえれば、【I】【II】のでき次第で十分に合格圏内に入れる。